

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2292300049		
法人名	有限会社快明堂介護センター		
事業所名	グループホーム快明堂		
所在地	静岡県 富士市 中央町 1-10-12		
自己評価作成日	平成24年1月20日	評価結果市町村受理日	平成24年3月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [aigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2292300049&SC](http://aigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2292300049&SC)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所		
所在地	静岡県葵区紺屋町5-8 マルシビル6階		
訪問調査日	平成24年2月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

センター方式を用いた個別ケア、生きている力を最大限活かして、五感で感じていただける支援、喜怒哀楽のある生活を目指し日々取り組んでいる。常に入居者を中心とした生活ベース作りを心がけ、一人ひとりの役割のある生活を心がけ、職員とともに生きている実感を感じていただけ、根拠のある支援に日々精進しています。OJT、OFJTに取り組み職員のスキルアップをしている。内部、外部、研修に全職員が積極的に参加している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は昭和の長屋をテーマにした造りで木をふんだんに使用しているので温かみを感じられる。また残存機能を活かすという点では浴室に向かう際の段差や共用空間と居室の和室はあえて段差を残してあり、足を上げ下げすることが日々のリハビリとなり、かつ利用者の健康維持へとつながっている。職員の積極的な関わりとゆとりのある介護によって、平均年齢は91歳、介護度は4とは思えないほど、どの利用者も生き生きと過ごす様子があり職員共に活発な印象がある。職員は事業所名の字のごとく訪問時も「快い」対応と「明るい」挨拶で出迎えてくれた。月に2~3回交代で外部研修に参加して日々質の向上を目指し利用者の「快適」で「明るい」笑顔溢れる暮らしを支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 グループホーム快明堂	各自、作り上げた理念を詳しく記載した内容を目的として玄関に提示すると共に理念と目的の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員の想いやビジョンが明瞭になっているため、利用者との関わりや声かけが大変充実していることが受け止められる。理念は初心に戻り常に自らのケアを振り返ることができるものとして位置づけている。また重要事項説明書にも盛り込んでおり、家族にも方針を伝えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	日々の挨拶を基本とし、なじみの関係を築きイベントにも参加していただき、つながりを深めていくように努めている。	町内会長が立ち寄ってくれたり地域が中心となって事業所行事への参加を呼びかけてくれたりと協力的で良好な関係ができています。地域貢献として介護予防の知識やタクティールケアについて話したり福祉体験の中学生に認知症サポーター養成講座を開催している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々も認知症を理解して下さり、偏見などなく、親身に應對して下さっている。近隣の方からの介護相談があり、事業所としてもできる範囲で貢献するように取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度の運営推進会議を行っており、報告、意見交換の機会をもっている。利用状況、行事案内、避難訓練など多方面にわたり意見交換を行い、運営に活かしている。	第三者委員である近隣住民と被災地の視察に訪れるなど一丸となって地域を活性化させる活動に取り組んでいる。会議では看取りについて話し合うことも多く、特に尊厳死について互いの見解などを共有している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	都度、報告、相談をしながら適正なサービスを提供、質の向上に取り組んでいる。	毎回運営推進会議に参加してくれるほか、介護保険課との情報交換が常にある。年4回開催する連絡協議会では実践事例発表会で奨励賞を受賞した。介護相談員は地域住民として運営推進会議にも参加してくれる協力体制を構築している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束が禁止条項であることを周知徹底している。玄関、各フロアは常に施錠せず、自由に入出りできるようになっている。内部、外部」研修に参加し、報告の場を設けてケア見直しに繋げ日常的に話し合い取り組んでいる。	利用者が外へ出ようとする時は「自由にどうぞ」と快く送り出し、利用者の気持ちを優先している。やむを得ず身体拘束を行う場合の同意書や「五つの方針」「身体拘束を行わないためのチェックリスト」など書面を揃えている。研修を通して積極的に職員の意識を刺激している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束、虐待について定期的に勉強会を行い、会議でも現状を振り返りながら職員同士見過ごさないよう話し合い、虐待がないように取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要な状況にある方には手続きを支援している。研修等を通じて学ぶ機会を持ち、分からない時には包括の方から助言をもらっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご本人、家族にわかりやすく説明を行い、重度化に伴う家族の不安に対して、相談に応じている。契約時にわからない所があれば、質問に丁寧に答え、納得の上サービスを利用していただけるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の希望に応じられるように、家族の協力を得ているが、家族などの意見を反映させる機会が少ない。	デイサービスに知り合いがいる家族から「交流を持つてはどうか」と意見をもらい、関係づくりが始まったという例もある。毎月支払いの時にコミュニケーションを厚く取るようにしたり、運営推進会議の様子を欠席した家族にも伝えている。中でも尊厳死のテーマに関心が集まり、家族の参加意欲が湧いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回のミーティングを行い、みんなの意見を取り入れている。連絡ノートや申し送りノートで日々の疑問点や提案ができるようにしている。個人面談し、職員の思いを聞き取るように努め、入居者と共に健康で楽しく支援に取り組む意見を反映している。	日系人の職員がいるので、国際協力センターからの要請で就労に際する職場見学を2年継続して行っている。管理者は職員の手薄になる時に現場に入りサポートするとともに、様子を把握するよう努めている。カンファレンスでは議題を持ち、職員が進行役を務めることで自主性を促している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や職員の目標を把握し、達成するための環境を提供しておうえんする仕組み作りを手掛けている。(研修参加・実践や発表の場の提供・手当支給・賞与基準への反映)		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や職員の得意な分野を活かし、不得意な分野はチームとして他の職員が補いながら参加して改めて気づくことができ、現場に反映させることができている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会が主催する管理者会議、研修、交流会、交換研修には必ず参加し、他事業所との連携を実施している。計画作成者は協会に入会し、情報収集を図り、ケアの質の向上を実施している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の相談には耳を傾け、困っているときはいつでも相談できるような体制をとっている。面接時、ご本人の思いや不安、悩みを細かくお聞きしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との対話を大切に相談にも親身に対処し、心配事があればいつでもホームに訪問できるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の相談には耳を傾け、困っているときはいつでも相談できるような体制をとっている。面接時、ご本人の思いや不安、悩みを細かくお聞きしている。包括支援センター、インフォーマルを含めたサービスもい行っている。市役所にも相談窓口があることを説明している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者のニーズを第一に考え、一緒に共に笑い、泣き、怒り、常に寄り添うことで、信頼関係を育てている。人生の大先輩として、会話や家事を教えてもらうことも多い。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が職員に何でも相談できる関係作りをつくる為に、担当職員がご本人と一緒に外出できる機会や、毎月近況報告をご家族に送り相談しやすい環境づくりを整えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホームに閉じこもらず外に出かけ、地域との交流を欠かさないようにしている。入居者の知人、友人が気軽に訪問できる雰囲気や会う機会を作るが殆どの方の継続は難しくなってきた。	自営業をしていた利用者と店頭でお茶を飲んできたり、以前家があった場を訪れたり、馴染みの和菓子屋へ行ったりしている。散歩時寺の近くを通った際に利用者が発した言葉から生家が寺だったことがわかり、線香が馴染みの香りであると発見を得たこともある。	今後も利用者の五感を刺激するような取り組みを通して、または日々の何気ないワンシーンから馴染みのモノやコトの発見が増えていくことを期待したい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中はホールに集まり、孤立しないようにしている。洗濯たみが出来ない入居者のものをたたんでくれたり、配膳を助け合う姿が見られる。生活サイクルを崩さないように職員が配慮している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	センター方式シートを家族の了解を得て、情報を提供している。他の施設、病院に入った後も相談を行い、関係を継続している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を用い、アセスメントでは、ほんにんがどのように暮らしたいのか、言葉や生活歴の中から探り、職員で話し合い実現するようにしている。	ビールが飲みたい人には冷蔵庫にノンアルコールビールを冷やしておき、眺めのいい場で味わってもらったり、仕事をしたいと言う利用者に掃除をお願いしたり、利用者が「デイサービスに参加したい」という意思を電話を使って伝えたり等思いを実現していて、センター方式を十二分に活用している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族、本人の言葉や生活歴の中から、ひととき、これまでの生活から、あまりかけ離生活にならないように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の残存能力を把握し、できることは自分で行っていただき、出来ない所だけ介助するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスの席上担当職員がモニタリングを行い、目標、サービス内容の検討を全職員で行っている。家族の面会時、情報収集をおこなっている。	利用者の様子を書いた連絡ノートから微妙な変化を捉えたり、活動、参加、心理などをまとめたシートから現状を把握した上で家族の思いや職員意見を取りまとめ、ケアマネがプランを起こしている。プランは状態の変化に合わせて都度変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	センター方式のD-4、D-3シートで各自のノートに健康チェック、本人の言った言葉、職員の気づきを記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人と家族との思いに寄り添えるように、地域との交流を心がけ、地域のイベントにも参加し、困った時には力を貸してもらえるように関係を深めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア活動の受け入れや、民生委員、消防の方にも運営推進会議、避難訓練に参加していただき、近くのスーパーなどに買い物に行けるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの往診や通院など、主治医は本人や家族の希望である。往診時には日常生活を詳しく報告し、急に調子が悪くなったりした時にはグループの職員が主治医を受診している。夜間、休日でも連絡は密にしている。	協力医は月に1回往診があり、週に2日看護師が勤務しているので医療面の安心が大きく、ほとんどが協力医に変更している。日頃の様子を電話やFAXで主治医に伝えていきめ細やかな連携が図れる状況にある。受診結果は連絡ノートと「施設介護経過」に記載して周知している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に入居者の状態を観察し、さまざまな症状や解らないことがあれば看護師に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族の了解を得て情報提供を行い、職員が面会に行くように努めている。又、食事介助があれば協力するようにしている。情報や連絡を正確に行い、入居者が普段の生活に早めに戻れるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	始めの契約時に終末期の説明を行い、家族の同意を得ている。カンファレンス時や面会時に、家族の意向を聞き、終末期に本人が穏やかに生活できるように家族、DR、ケアマネと相談し、ケアの方針をたてている。	契約時に「終末期ケアに対する意向確認書」「同意書」にて家族の気持ちを聴いて、状態の変化に合わせて再確認している。看護師を交えて話し合うほか、研修を年1回行っている。職員は「尊厳死」について熱意を持って真摯に向き合っていて、今年は2件の実績もある。	職員のメンタルケアに向けて具体的な取り組みがなされることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	カンファレンスで誤嚥や喉詰まりの対応、訓練を話し合い、備えている。すべての職員が定期的に応急処置や初期対応が出来るように研修を計画的に組み込みたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域、消防署の協力を得て、年1回夜間、日中を想定した避難訓練、救助方法、怪我の対処方法の実践を行っている。災害発生時に備えての食糧などの備蓄も出来ていない。今後、備蓄と災害マニュアルも作成予定。	2～3ヶ月に1回、事業所独自の訓練に取り組みカンファレンスで考察したり、外部研修に参加して意識を高めている。年2回の防災訓練はデイサービスと合同で行っていて地域の協力もある。身近なものを活用した応急処置の知識などを事業所外の参加者とも共有している。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いには特に注意し、一人ひとりのプライドを傷つけないように、否定せず本人の話を良く聞き本人に分かるように分かる言葉で話す。	「顔を見ながら視線を合わせる」ことで言葉が出なくても気持ちが通じているという。また大勢の中で直接的な言葉を遣わないでさり気ない誘導をしたり、利用者にひと声かけてから居室に出入りすることも視認した。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の言葉や行動の中に秘められている思いをセンター方式D-4シートに記録し、職員全員で探り出している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者が第一であるという理念の下に、自分のペースで快適に過ごせるようにしている。入浴は毎日あるが入りたくない時は無理強いはいはしない。入居者の認知度が高くなり、一日の過ごし方にあまり変化が見られなくなってきた。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの理容師が毎月2回来た時に本人、家族の希望に合わせている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しんでいる入居者が多いので、献立を聞きながら、調理も一緒に行っている。入居者と一緒に、野菜の下ごしらえ、ラッキョ、梅漬け、配膳などを楽しそうにされている。食卓では定位置があり、職員も一緒に食事を楽しんでいる。	朝、夕食は職員が、昼食は厨房で作っている。職員が作る時は管理栄養士にメニューチェックをしてもらい、栄養が偏らないようにアドバイスをもらっている。器が変わるだけでも見た目に楽しめるよう、月に1回「お弁当の日」を設けている。またおやつは週に2~3日手作りしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月、季節に応じた弁当づくりをし、提供形態のマンネリ化に配慮し、食事量、水分量は常に記録している。わずかな変化も見逃さないようにし、間食できるメニューや分量など工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは毎食後欠かさず清潔を保っている。磨き残しが或る場合は職員が磨きなおしをしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	プライバシーに配慮し、自分で行かれないかたは2時間ごとに声掛け、誘導をし、立位が取れない方には職員が2人で介助している。日中はできるだけトイレで排泄し、排泄感覚を失わないようにしている。	センター方式を活用して排泄の状態を折れ線グラフで表し把握している。夜間おむつを使用している利用者も日中はリハパンとパットで過ごし、職員のさり気ない誘導でトイレでの排泄ができています。コーヒーに牛乳を入れるなど味を工夫して、1日1リットル以上水分を摂れるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表をつけ、職員が便秘状況を把握し、水分補給や食事に気をつけている。自然排便を促すようにヨーグルトなど摂るよう心がけ、下剤はDRと相談しながら服用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は毎日3人づつに分けているが、入りたくない時には翌日にするなど臨機応変に対応している。入浴しない日や排尿等、排泄後の清拭を行い保清に努めている。	3日に1回の入浴を旨としているが毎日入りたい利用者もいるので湯を張らない日はない。車いすの利用者も湯につかれるように、他事業所の訪問入浴の職員に指導を仰ぎながら取り組み、最終的に実現できた事例もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入浴後など、疲れが見られる時は仮眠をとっていただく声掛けをしている。夜間眠れない時には安心していただくように添え寝などを対応している。一人ひとりの生活リズムを把握し、休める機会を作っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	本人の日頃の様子を把握し、いつもと違う様子が見られたら主治医に報告し、指示を仰いでいる。ミスを防ぐ為、一人の職員がすべて行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員と共に好きなことをして頂き、家事作業をすることで協力しながら生活のする他者との交流の機会を持っている。コーヒーなど職員と一緒に楽しむ時間を持っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	毎日の散歩や外気浴を心がけ、歩けない方も車椅子で出かけている。近隣の散歩時、買い物をしたり日常的に外気に触れるよう努めている。	近隣の地域資源を活用して外食や喫茶を楽しんだり職員と一緒に買い物に行っている。また裏通りには公園があり、事業所の周辺を30分から1時間かけて散歩している。散歩のほかにも玄関先で日光浴をして、すべての利用者が戸外の新鮮な空気に触れることができるよう積極的に取り組んでいる。	



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理が難しい為金銭はホームでの立て替えとし、ご家族とも話し合い、少額の金銭を所持しているケースもある。買い物支払いなど使う場面を大切にしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話をかけられることを伝え、家族に電話をして欲しいと要望があれば、職員が取次ぎ電話をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール、玄関の飾りつけは季節感を大切にしながら入居者と共に制作している。入居者は自室で閉じこもることはなく、ホールで1日を過ごす。職員と掃除を行ったり、ソファでくつろいだり、快適な生活を送っている。	共用空間の和室スペースには掘りごたつにちゃぶ台があり、昭和の雰囲気が出ている。この空間で食事を楽しむ利用者もいて、それぞれの居場所がある。居室と居室の間にはベンチと飾り棚があり、様々な置き物や飾りが目を楽しませてくれる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間に限りがあることから、希望通り出来ていない所もあるが、玄関や窓に椅子を置き、移動しやすい環境を作り、好きな場所でくつろげる工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の居室ドアには担当職員手創りの表札が掲げられている。華やかな飾りつけは無いが整理整頓された居室になっている。	和室と洋室がある。洋室で布団を敷いて寝ている利用者もいて、ベッドや布団の選択が可能である。趣味の物、時計、テレビ、レクの作品、写真など好みのものを持ち込み、それぞれ思い思いの居室を作り上げている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日中、トイレに行かれる方でも、夜間転倒の危険がある方は、ポータブルトイレを置いて自分で安全に排泄が出来るようにしている。夜、寝付かれない方傍で寄り添い、ソファで対応するなどし、安心できる環境づくりに努めている。		